

多様な議員で構成された
活力ある地方議会を目指して

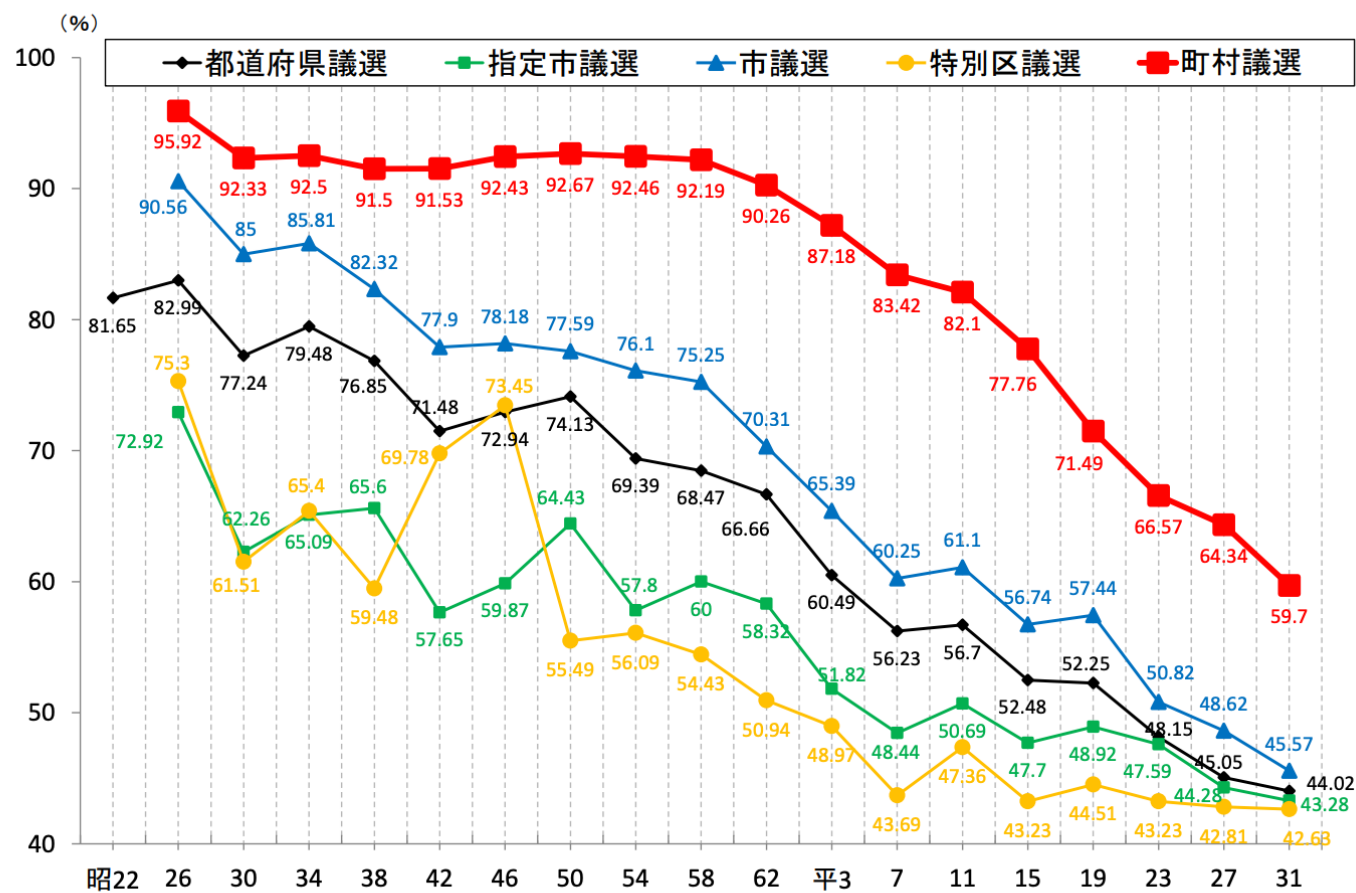
谷口尚子（慶應義塾大学）



1 我が国の地方議会の課題

(1) 長期的な投票率の低下現象

統一地方選挙における投票率の推移



出所：総務省「地方選挙結果調」等を基に作成。(本調査は、統一地方選挙の際に実施したもの)
注：昭和22年の市区町村議選の内訳は調査していない。

(2) 選挙における低投票率の原因は？

$$R = P * B - C + D$$

R：有権者が投票から得られる利益

P：自分の1票が選挙に与える影響

B：政党間期待効用差（政策の差）

C：投票コスト

D：投票自体から得られる心理的利益（義務感、有効性感覚、支持表出等）



⇒P：自分の1票が選挙に影響しないと感じると有権者は投票しない

（競争性が低い、自分の1票で政策や政治が変化すると思えない）

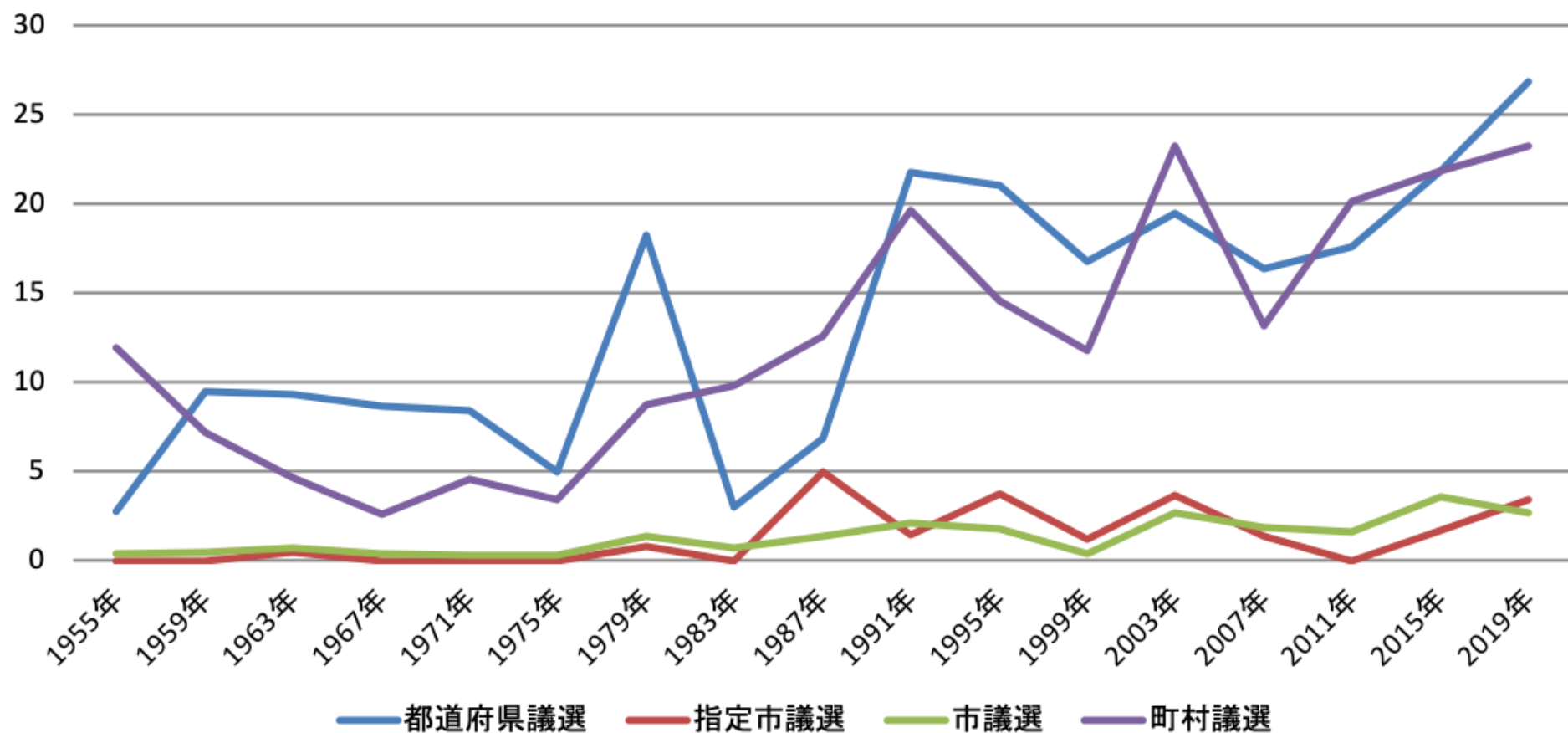
⇒C：面倒に感じれば投票しない

⇒D：参加の意義を感じない（関心・信頼が低い、価値を感じないなど）と
投票しない（実は満足の裏返し？）、

投票したい選択肢がないと投票しない

(3) 地方選挙の競争性の問題：無投票当選の増加

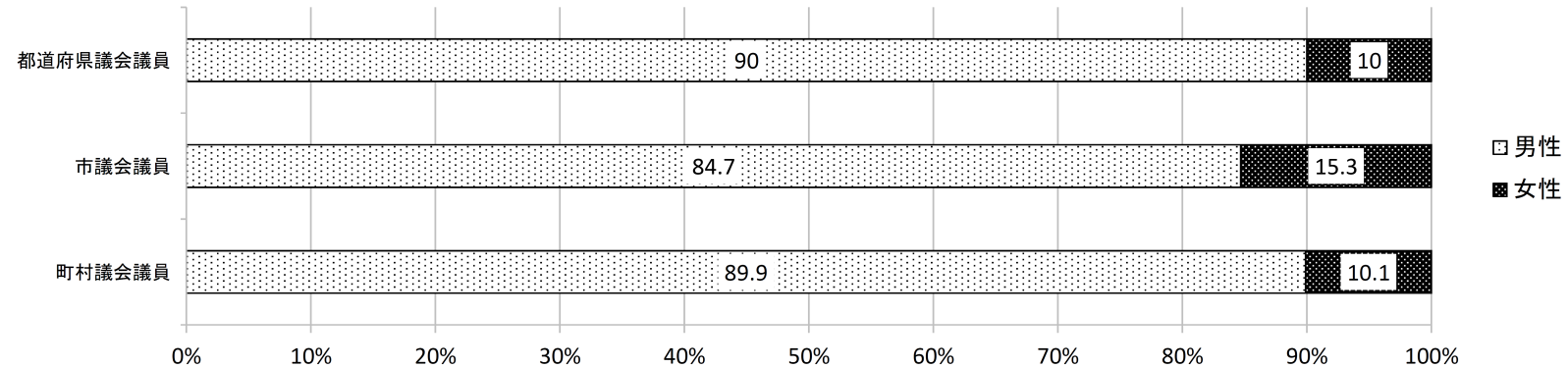
図2:統一地方選の改選数に占める無投票当選者数の割合の推移(%)



(4) 地方議会議員の属性の偏り：住民の代表性

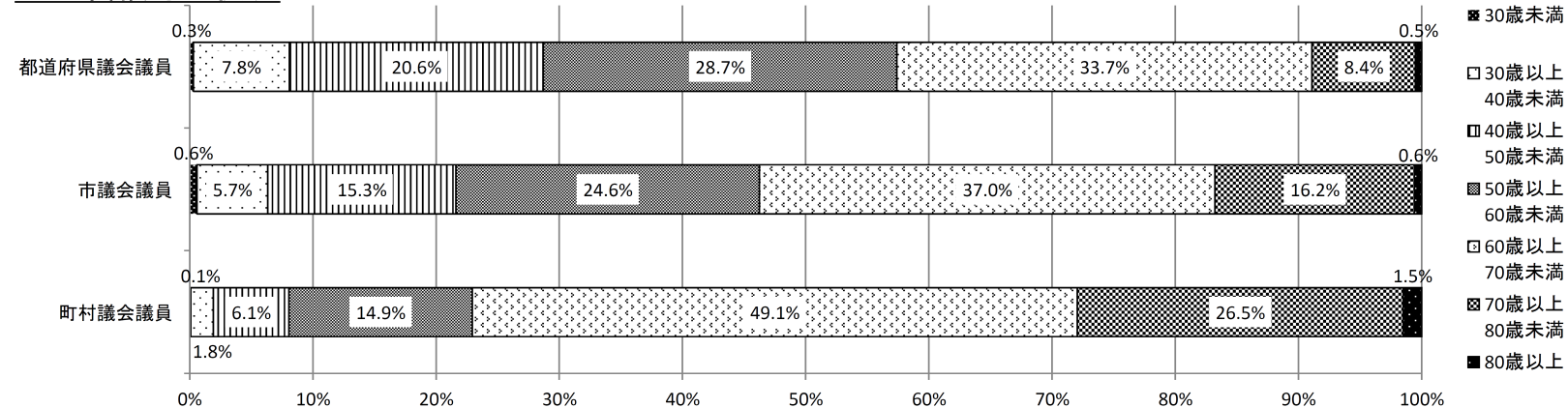
地方議会議員の概況②（性別、年齢別）

○ 男女の比率



出典：総務省「地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調」（平成30年12月31日現在）

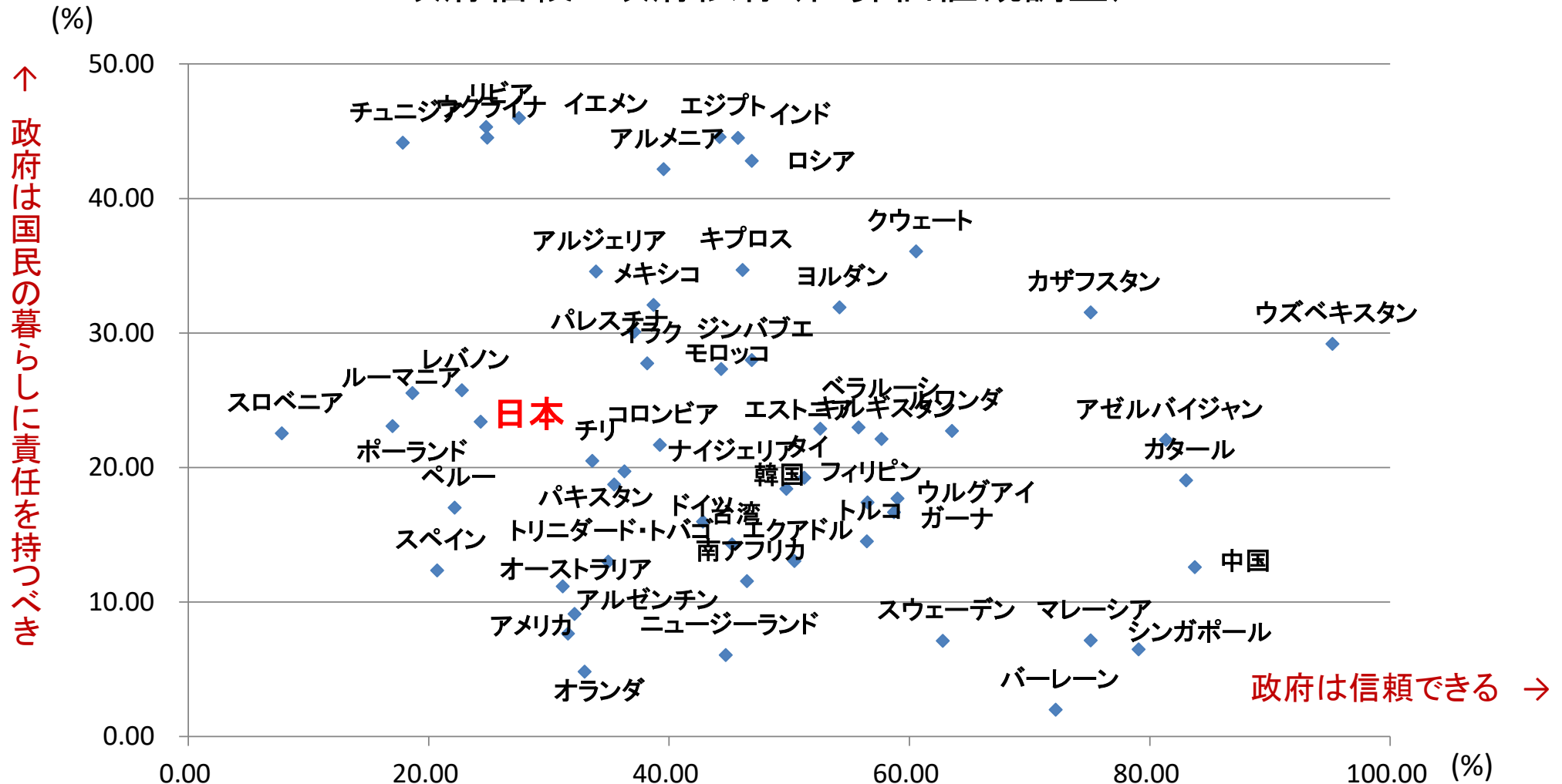
○ 年齢別の状況



出典：全国都道府県議会議長会「都道府県議会提要」（平成27年7月1日現在）
 全国市議会議長会「市議会議員の属性に関する調」（令和元年7月1日現在）
 全国町村議会議長会「第64回町村議会実態調査結果の概要」（平成30年7月1日現在）

(5) 日本の有権者の主体性の問題：先進国の中では政府不信・政府依存が高い

政府信頼と政府依存(世界価値観調査)



2 課題を乗り越える方向性

- (1) 選挙の価値を上げる：競争性を高める、政策議論の質を高める
- (2) 有権者それぞれを代表する候補者、魅力ある候補者を増やす：
候補者選定に工夫、候補者教育
- (3) 地方議員を目指す人への支援：待遇改善、選挙支援、柔軟な議会運営
- (4) 地方政治への関心や信頼性を高める：広報、議員と市民の幅広い交流
- (5) 地方政治ならではの特色や新しい流れをつかむ
 - ・ 実は中央政府（国）より地方政府（自治体等）への信頼の方が高い
 - ・ 身近な政策に関する意見聴取・住民参画
→「自分事」にしていく
 - ・ 「民主主義のDX（デジタル化）」を進める



(6) 次世代への視点：主権者教育、若者の地域愛着や課題解決意欲を伸ばす

高校での検証結果（11月26日）
二極ブレスト（15名）

回答者数15名	回答の平均値		対応のあるサンプルのt検定
	座学後	二極ブレスト後	有意確率
面白いと思った	4.4	5.6	0.001**
政治に関する知識が増えた	4.67	5.13	0.169
政治への関心が高まった	4.13	5.27	0.001**
選挙へ行く意欲が高まった	4.47	5.33	0.004**

高校での検証結果（11月26日）
政策分類ワーク（19名）

回答者数19名	回答の平均値		対応のあるサンプルのt検定
	座学後	政策分類ワーク後	有意確率
面白いと思った	4.32	4.68	0.286
政治に関する知識が増えた	5.32	5.32	1
政治への関心が高まった	4.68	5.26	0.086
選挙へ行く意欲が高まった	4.58	5.11	0.021*

主成分得点	面白いと思った		政治知識増加		政治関心増加		投票意欲向上	
	標準化係数		標準化係数		標準化係数		標準化係数	
1 関心・義務感・親投票	.257	*	.075		.128		.303	*
2 有効性感覚無し	-.079		-.015		-.059		-.071	
3 現状満足	.274	*	.215		.191		.228	+
4 親社会参加不熱心	.093		-.029		-.036		-.020	
5 多様性尊重	-.102		.012		-.058		-.044	

